

立命館大学環太平洋文明研究センター第19回研究会

2018年2月7日（水）18:00—19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館2階研究会室1

海の人類史

—環太平洋圏におけるヒトの海洋適応と海民の誕生—

小野 林太郎

（東海大学海洋学部准教授）



（左）東南アジアの海民サマの杭上家屋と家舟、（右）21000年前に遡る可能性のあるジェリマライ遺跡出土の貝製釣針（オーストラリア国立大学・スー・オコナー教授提供）

日本を含む環太平洋圏には、現代にいたるまで海や沿岸域に特化した暮らしを営む海の民が広く分布・生活してきました。本発表では東南アジアやオセアニアの海域世界へ移住したヒトの文化や海との歴史を、人類・海民史的な視点から再検討します。とくに私たち新人が最初に環太平洋圏に進出した旧石器時代と、新たに南太平洋への移住・拡散に成功した海民的なアジア系集団が出現する新石器時代の事例を中心とします。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumeai.ac.jp/research/rcppc/>